



長期留学体験談（アメリカ・カナダ）

2019～2020年度 モントリオール大学（カナダ）

N.H.(国際交流学科 2019～2020(R元～2)年度留学)

私は高校生のころから漠然と海外留学に憧れがあり、大学進学後に自分の可能性を広げられることに挑戦したいと思うようになりました。そこで、留学が適していると考え、国際センターが開催している説明会や帰国報告会に足を運び、沢山の情報を得ることから始めました。私は長期の交換留学を希望し、選んだ留学先はカナダのモントリオール大学です。協定を結んだばかりで、留学の前例者がおらず、情報がほとんどないところから始まりました。今思えば、留学中も大変でしたが、留学前の準備早々から心が挫けそうになったこともあります。

モントリオールの街は、カナダ国内でも大きな都市の一つで移民の受け入れ数も多く、町並みはヨーロッパっぽい雰囲気を持ちながら、多様な人種と文化に溢れていました。モントリオール大学は非常に大きな大学で生徒数も多く、初日から圧倒されたのをよく覚えています。一コマ3時間の授業を週に4～5つ取り、課題もかなり多かったです。友人や大学のサポートで見つけた言語パートナーに協力を得ながら進めることができました。大学の授業ももちろん大切ですが、私は交流の場を広げることに力を入れ、友人以外にも、現地の青年団体に所属することもしました。そして冬が長いモントリオールで飽きるぐらいの雪遊びや、ホストファミリーとの時間、犬の散歩、団体のイベントに参加し、忙しすぎるぐらいに過ごしていました。私はもともと、大勢でいるのが好きではないので、寮やシェアハウスはあまり視野に入れず、しかし1人暮らしも心細くなりそうだったので、ホームステイに決め、結果的に家族やペットと有意義な時間を過ごせました。今回のCOVID-19により、2か月程早く帰国しましたが、最終的にオンライン授業で学期末まで授業を受けることができました。イレギュラーなことに振り回されてしまいましたが、自分が望んでいた自身の可能性は大いに広がり、成長できた部分が多くあると思います。

これから留学を考えている方には、ぜひ応援したい気持ちと並行して厳しいようですが、留学準備から留学という長い時間を過ごしぬけられる覚悟をもって欲しいという気持ちもあります。しかし、留学中は本当に新鮮なことばかりで、吸収する毎日楽しい事がたくさんあります。大いに希望を持って前向きに頑張ってください！

2017～2018年度 マギル大学（カナダ）

A.T.(国際交流学科 2017～2018(H29～30)年度留学)

私が留学したマギル大学は、授業がハードなことでも有名な大学で、8ヶ月の留学期間中、私の頭の中は毎日「勉強」の二文字で埋め尽くされていました。授業は毎回数十ページの難しい論文を読んでから参加しなければいけないし、授業後は授業の録画（マイページで後日配信されます）を何度も見返して授業を理解するので必死でした。そんな中、マギルの大学院生だったホストシスターが精神的にサポートしてくれたり、友達が授業の解説（といっても英語ですが）をしてくれたり、とても救われました。

2017～2018 年度 マギル大学 (カナダ)

M.M. (国際交流学科 2017～2018(H29～30)年度留学)

リーディングの課題に関しては教授や TA、周囲の友人に何度も相談しながら効率的な方法を模索したり、ディスカッションの授業では事前に自分の意見を英語でまとめることで、自信をもって発表できるようにしたり、わからないところは日本語の資料を電子書籍で購入して勉強したりと、精一杯でできることを探しました。

留学終盤になってくると、ディスカッションの授業でスピード感到に圧倒されることなく、率先的に発言することができるようになっていたり、エッセイの課題を心から楽しみながら行っていたり、グループワークで学生同士の意見の対立を仲介できたりと、成長の実感を得られた時の達成感は本当に快感でした。

2017～2018 年度 マギル大学 (カナダ)

R.O. (国際交流学科 2017～2018(H29～30)年度留学)

マギル大学は学生数が4万人程度と圧倒的に多く、私は留学前、留学生一人一人へのサポートが手薄なのではないかと心配していました。しかし9月にオリエンテーションウィークのようなものがあり、新入生や留学生向けのインフォメーションセッションに参加することで大学設備など、学生生活に必要な情報を手に入れることができただけでなく、留学生の友人も作ることができました。

また授業では、大学院生として授業をサポートしてくださるティーチングアシスタントの方に疑問点を聞くなど相談に乗っていただける制度があり、留学生でも安心して大学生活を送ることができます。勉強量の多さには苦勞しましたが、クラスメイトやティーチングアシスタントの方に積極的に相談することで、乗り越えることができたと感じています。また授業にはディスカッションやグループプレゼンテーションを課すものも多く、ネイティブの学生に囲まれて英語を話すのは非常に緊張しましたが、スピーキング力や発言力を養うことができたと感じています。